

課題番号	LZ002
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成24年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	ネットいじめ研究の新展開-「行動する傍観者」を生み出すプログラム-
研究機関・ 部局・職名	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授
氏名	鈴木 佳苗

1. 当該年度の研究目的

<p>ネットいじめは、従来の学校でのいじめの一形態(手段としてインターネットを使用したいじめ)であり、いじめ対策には、早期発見と早期介入の観点が重要である。本研究では、ネットいじめやいじめの低減のために、当事者(加害者、被害者)の周囲の人々の行動とゲーミング・シミュレーションの手法に注目している。ゲーミング・シミュレーションの手法を用いることによって、学習者は、学習への動機づけを維持しながら、ゲーム内で起こったネットいじめやいじめに対する当事者の周囲の人々の視点で、自分が選択した行動とその結果を体験することができると思われる。</p> <p>そこで、本研究では、ネットいじめやいじめにいたる対人相互作用過程を再現するインタラクティブ・ソフトウェア(IS)を開発し、青少年がこのISを使用してさまざまな対人相互作用の経験をすることによって、いじめになる前に介入することの重要性を認識することを目指している。</p> <p>本研究全体の具体的な目的は、主に以下の3点である。</p> <p>(1)ネットいじめの生起状況や対策の網羅的な情報収集と整理を行う^{注1}。</p> <p>(2)ネットいじめの当事者以外の者(「行動する傍観者」)の行動によってネットいじめ状況が変化する対人相互作用過程を再現するISを開発する。</p> <p>(3)(2)のISを組み込んだ新しい教育プログラムの提案とその効果の検討を行う。</p> <p>平成24年度には、上述の目的(2)について、平成23年度に実施したシナリオ評価^{注2}の結果に基づいて修正・追記し、シナリオを完成させ、ISの絵コンテの作成に着手する。</p> <p>注1: 目的の(1)については、平成22年度および平成23年度に、高校生におけるネットいじめを含んだ対人トラブルの生起状況の検討(モバイル調査)、高校生世代のネットいじめおよびいじめに関するエピソードの収集(文献調査、被害者インタビュー調査)、教育プログラムや教材の収集(文献調査、訪問調査)を行った。</p> <p>注2: 目的(2)については、平成23年度に、これらの調査の結果に基づいてISの設定とシナリオ案(第一案)の作成とその評価を行った。</p>

様式19 別紙1

2. 研究の実施状況

平成24年度には、以下の研究を実施した。

1. ネットいじめを含んだ対人トラブル予防のための情報収集と分析

文献調査、訪問調査によって、国内外のネットいじめを含んだ対人トラブル予防のための教育プログラムの例や、本プロジェクトで作成する授業案にかかわる文献を収集し、また、専門家へのヒアリングも実施した。収集した情報の中から、「ネットいじめを含んだ対人トラブル予防のための教育プログラム案」に組み込む必要のある内容を抽出した。

また、教員の対人トラブルへの対応についての態度を把握した上で、教育プログラム案を作成するために、中学校・高等学校の現職教員を対象としたウェブ調査を実施した。

2. IS の開発

これまでの調査の結果やシナリオ案(第一案)の評価結果、大学生による評価結果等に基づいて、ネットいじめを含んだ対人トラブルへの対処行動によって、その状況が改善あるいは悪化することを描いたISのシナリオを完成させた。

3. ネットいじめを含んだ対人トラブル予防のための教育プログラム案の開発

ネットいじめを含んだ対人トラブル予防のための教育プログラム案(第一案)を作成し、教員および専門家による助言・評価を受けた。

4. 研究成果の公開

平成23年度に続き、本プロジェクトの情報を Web ページで公開している。

3. 研究発表等

雑誌論文	(掲載済み一査読有り) 計1件
計1件	Suzuki, K., Kashibuchi, M., Yamaki, R., Kumazaki, A., Horiuchi, Y., & Inomata, F. (2012). Use of gaming simulation for cyber-bullying prevention. <i>Studies in Simulation and Gaming</i> , 22(Special), 39-48.
	(掲載済み一査読無し) 計0件
	(未掲載) 計0件
会議発表	専門家向け 計17件
計17件	(査読有り) (1) Horiuchi, Y., Kashibuchi, M., Kumazaki, A., Yamaki, R., & Suzuki, K. (2012). Cyber peer aggression among high school students in Japan: A study of responses to cyber peer aggression via mobile phone survey. Poster presented at International Conference of Bullying and Cyberbullying: The Interface between Science and Practice, Vienna, Austria.

(Abstract)

- (2) Kashibuchi, M., Horiuchi, Y., Kumazaki, A., Yamaki, R., & Suzuki, K. (2012). Cyber peer aggression among high school students in Japan: A study of encounter rates via mobile phone survey. Poster presented at International Conference of Bullying and Cyberbullying: The Interface between Science and Practice, Vienna, Austria. (Abstract)
- (3) Suzuki, K., Kumazaki, A., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2012). Analyzing effects of mobile and PC Internet usage on cyberbullying experiences by age and gender: A three-wave panel study of Japanese elementary, secondary and high school students. Paper presented at the 8th International Conference on Cyberbullying, Paris, France (Abstract)
- (4) Kumazaki, A., Suzuki, K., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2012). Moderating effects of netiquette on negative effects of ICT skills and cyber bullying: One-year, two-wave panel study of Japanese elementary, secondary and high school students. Paper presented at the 8th International Conference on Cyberbullying, Paris, France (Abstract)

(査読無し)

- (1) 鈴木佳苗・熊崎あゆち・桂瑠以・坂元章・榎淵めぐみ (2012). ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(3) -高校生を対象としたモバイル調査におけるネットいじめ加害行動経験率の単純集計- 日本心理学会第76回大会 (専修大学)
- (2) 堀内由樹子・鈴木佳苗・熊崎あゆち・榎淵めぐみ・桂瑠以・坂元章 (2012). ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(4) -ネットいじめの加害理由の単純集計- 日本心理学会第76回大会 (専修大学)
- (3) 熊崎あゆち・榎淵めぐみ・堀内由樹子・鈴木佳苗・桂瑠以・坂元章 (2012). ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(5) -ネットいじめの加害行動経験がある高校生及び一般高校生の ICT スキル及び情報モラルの実態- 日本心理学会第76回大会 (専修大学)
- (4) 熊崎あゆち・鈴木佳苗・桂瑠以・坂元章・榎淵めぐみ (2012). 子どものインターネット利用といじめ(9) -ネットを利用した/利用しない仲間内攻撃行動の被害経験の重なり- 日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
- (5) 鈴木佳苗・熊崎あゆち・桂瑠以・坂元章・榎淵めぐみ (2012). 子どものインターネット利用といじめ(10) -ネットを介した仲間内攻撃行動がネットを介さない仲間内攻撃行動に及ぼす影響に対する携帯電話とパソコン利用の調整効果- 日本社会心理学会第53回大会 (つくば国際会議場)
- (6) 熊崎あゆち・榎淵めぐみ・堀内由樹子・鈴木佳苗・八巻龍 (2012). ネット尺度の作成 -高校生ウェブ調査による検討- 日本教育工学会第28回全国大会 (長崎大学)
- (7) 八巻龍・榎淵めぐみ・堀内由樹子・熊崎あゆち・鈴木佳苗 (2012). ネット上における情報発信知識尺度の作成 -高校生モバイル調査による検討- 日本教育工学会第28回全国大会 (長崎大学)
- (8) 鈴木佳苗・熊崎あゆち・桂瑠以・坂元章・榎淵めぐみ (2012). ネット上の仲間内攻

様式19 別紙1

	<p>撃行動に対する学校での仲間内攻撃行動の影響 日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学)</p> <p>(9) 堀内由樹子・熊崎 あゆち・樫淵 めぐみ・鈴木 佳苗・安藤 玲子・坂元 章・桂 瑠以 (2012). 家庭における中高生の IT メディア利用ルールの実態 日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学)</p> <p>(10) 堀内由樹子・樫淵めぐみ・熊崎あゆち・鈴木佳苗・八巻龍 (2012). 高校生がネット上における仲間内攻撃行動を目撃した際の行動(1) -被害者との関係性別の集計結果- 日本教育心理学会第 54 回総会 (琉球大学)</p> <p>(11) 熊崎あゆち・樫淵めぐみ・堀内由樹子・鈴木佳苗・八巻龍 (2012). 高校生がネット上における仲間内攻撃行動を目撃した際の行動(2) -加害者との関係性別の集計結果- 日本教育心理学会第 54 回総会 (琉球大学)</p> <p>(12) 樫淵めぐみ・鈴木佳苗・熊崎あゆち・堀内由樹子・八巻龍・猪股富美子 (2012). 高校生活におけるネットを介した対人トラブルの実態と対策 -被害経験者に対するインタビューをもとに- 日本教育心理学会第 54 回総会 (琉球大学)</p> <p>(13) 堀内由樹子・樫淵めぐみ・熊崎あゆち・鈴木佳苗・八巻龍 (2012). 高校生がネットを介した仲間内攻撃行動を傍観する理由の検討 日本社会心理学会第 53 回大会 (つくば国際会議場)</p> <p>一般向け 計 0 件</p>
<p>図 書</p> <p>計 0 件</p>	
<p>産業財産権 出願・取得状 況</p> <p>計 0 件</p>	<p>(取得済み) 計 0 件</p> <p>(出願中) 計 0 件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ppab/</p>
<p>国民との科 学・技術対話 の実施状況</p>	<p>鈴木佳苗 (2012, 8). 「ネットいじめの予防に向けて」 青森県教育委員会情報モラル指導者講習会</p>
<p>新聞・一般雑 誌等掲載</p> <p>計 1 件</p>	<p>(教育専門雑誌)</p> <p>鈴木佳苗 (2013). 携帯電話・ネット使用がいじめに影響する? 道徳教育, 655, 12-15.</p>
<p>その他</p>	

様式19 別紙1

4. その他特記事項

文献調査や専門家や関連機関に対する訪問調査などによる国内外のネットいじめ、いじめの状況の違いを踏まえて、IS の内容や教育プログラムの開発においては海外ではなく日本の実践や対策、日本の専門家や関連機関の意見に焦点を当てることとした。教材については、海外のネットいじめ、いじめに関する IS を収集し、教材の形式を参考にした。

また、平成 24 年度に最先端・次世代研究開発支援プログラム進捗管理委員会が実施した進捗管理において、ネットいじめの被害者へのインタビューの不足についての指摘を受けたが、平成 23 年度に実施しており、平成 23 年度の報告書の中で目的(1)に対する「1-2. インタビュー調査」として記載している。

実施状況報告書(平成24年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	77,000,000	20,833,000	29,859,000	26,308,000	0
間接経費	23,100,000	6,249,900	8,957,700	7,892,400	0
合計	100,100,000	27,082,900	38,816,700	34,200,400	0

2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	165,858	29,859,000	0	30,024,858	19,137,538	10,887,320	0
間接経費	49,758	8,957,700	0	9,007,458	5,741,261	3,266,197	0
合計	215,616	38,816,700	0	39,032,316	24,878,799	14,153,517	0

3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	1,246,591	研究資料、分析ソフト、パソコン等の購入費
旅費	2,819,775	研究成果発表旅費、訪問調査旅費
謝金・人件費等	10,839,407	研究員・職員人件費、助言謝金
その他	4,231,765	学会参加費、ウェブ調査委託費、複写費等
直接経費計	19,137,538	
間接経費計	5,741,261	
合計	24,878,799	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		